

	要求額 (千円)	内訳						交付額 (千円)
		調査	国内出張	海外出張	翻訳	講習会・講演会	その他	
コンテンツ WG	5,050	2,000	450		1,000	1,500	100	
国際連携 WG	1,700		300	1,200	200			
技術 WG	1,200	500	600				100	
WG 全体会合 (2 回)	2,400		2,400					
計	10,350	2,500	3,750	1,200	1,200	1,500	200	

項目	内容	ゴール	スケジュール		所要経費
コンテンツ構築ノウハウの継承 (とくに JC 新規参入館への注 入)	<p>(1) JAIRO Cloud のマニュアル (FAQ)の整理 JC のコミュニティフォーラムに寄せられる質問と NII への直接の問い合わせ内容を整理し、JC コミュニティの「みんなで作るマニュアル」に反映させる。「みんなで作るマニュアル」を立ち上げる際に尽力された機関などフォーラムで活発に活動されている機関も巻き込んで作成する。できれば、JC コミュニティ全体で協力して今後も継続してまとめる作業としたい。あらかじめ JC コミュニティにて活発に活動されている機関の担当者にあらかじめ声をかけて巻き込んでいきたい。</p> <p>(2) 講習会のニーズ調査アンケートの実施と、講習会の開催 リポジトリ担当者が困っていること、ニーズの洗い出しを行い、それを講習会に反映させる。それ</p>	<p>JAIRO Cloud で技術的には簡単にリポジトリを構築することが可能になった分、本来のリポジトリの目的がぼやけてきている。とりあえず博士論文を上げておくだけの状態からもう一歩前に進める為の広報や研修が必要である。</p>	<p>(1) JAIRO Cloud のマニュアル (FAQ)の整理 9 月: JC 参加館に対するニーズ調査準備 10 月: フォーラムを通じて調査を実施 11 月: マニュアルの構成を検討 11-2 月: 情報の整理、「みんなで作るマニュアル」への登録</p> <p>※NII へ寄せられる質問内容について開示の可否を含めて現在確認中。</p>	<p>アンケート調査 国内出張 印刷費</p>	<p>WG 打ち合わせ 1 回 50 千円 講習会 開催 500 千円 ※以下の想定で ・全国 4 か所(東 西 南 北) ・WG 委員所属 館の会場協力 ・担当者旅費 200 千円 (4 回 分 合 計) ・外部講師招聘 200 千円 (4 回 分 合 計)</p>

	とともに、リポジトリの概論のような内容も充実させる。講習会は地方にて実施し、オンラインでのストリーム放送や地方会場を複数設置しテレビ会議のようなことは出来ないか？他のグループのアンケート活動との調整が必要。		(2) 講習会のニーズ調査アンケートの実施と、講習会の開催 8-9月：講習会のニーズ調査準備 10月-11月：アンケート調査実施 11-2月：講習会の内容検討、企画立案 講習会実施（難しければ、次年度）		・資料印刷・雑費 100千円（4回分合計）
博論電子公開制度の実績評価と課題抽出・解決	<p>一次調査：全博士課程設置大学に対してアンケート調査を実施。大学長宛てに手紙を送付、回答はウェブシステムで。アンケート項目は富田部長のご意見、文部科学省の学術情報基盤実態調査などの項目を参考に検討する。</p> <p>二次調査：一次調査で判明した公開率が高いなど成果を挙げている大学に対してインタビュー調査を行なう。</p> <p>○NII へのお願い</p> <p>1. 文科省の「学術情報基盤実態調査」、「各大学院における「大学院教育振興施策要綱」に関する取組の調査」の平成 26 年度の調査項目を入手して頂きたい。</p> <p>2. 一次調査を送付するための博士課程設置大学リストはNIIから文科省に依頼して入手して頂きたい。</p>	<p>博士論文インターネット公開義務化に関する学位規則改正の成果を確認する。公開率が大学によって大きな差が存在する場合、公開率の高い大学がどのような運用をしているかを調べて発表し、全国で共有することを目指す。</p> <p>1. 11月頃に実態調査速報をワーキンググループ内で公開</p> <p>2. 2015年3月頃に調査報告書をNIIの</p>	<p>8月：一次調査項目の検討（富田部長及びコンテンツ WG 全体にも諮る）</p> <p>9月中：各大学にアンケート送付し、一次調査実施</p> <p>10月：各大学回答</p> <p>11月：集計、速報公開、二次調査する大学を検討して協力を打診</p> <p>12月：二次調査の調査</p> <p>1月～2月：二次調査結果まとめ、報告書作成</p> <p>3月：成果発表</p>	<p>アンケート調査</p> <p>国内出張</p>	<p>WG 打ち合わせ 1回 200千円</p> <p>調査実施・集約 2,000千円</p>

	<p>○検討事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一次調査の送付、回答集計は外注したいが、予算面から見て実施可能かどうか。 2. コンテンツ WG 内他班でも大学を対象としたアンケートを実施する可能性があるとのこと。アンケートに回答する大学側の負担を考えると、まとめた方がよいと思われるかどうか。 3. 二次調査で、大学へのインタビュー調査を行う場合、旅費等がかかる可能性がある。予算の面から見て実施可能かどうか。 <p>○現在不安に思っている点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スケジュールがかなりタイト（特に 12 月以降）で、実現できるか。 	<p>HP(?)で公開し、調査協力して頂いた各大学へのフィードバックを実施</p>			
<p>オープンアクセス方針も視野に入れた学内認知度向上</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 大学としての研究成果発信・OA ポリシーの有無（1名）：グループ内調査 (2) 研究者意識調査（アンチ OA・コンテンツ登録リピーター）（1名（集約担当者？）※候補者は各自リストアップ）：自学教員に対するインタビュー。余裕があれば他大学も。 (3) 図書館リポジトリ担当者から見た研究者動向調査（アンチ OA・コンテンツ登録リピーター）（1名）：アンケート (4) 海外事例調査（OA ポリシー、動向など）（1名）：グループ内調査。国際連携 WG との連携も？ (5) 国内の動向調査（第 2 回 SPARC Japan セミナー2014） 	<p>リポジトリ未構築大学における学内コンセンサスの形成と、リポジトリ既構築館におけるコンテンツ登録・OA・マンドートの促進のために、ある程度の強制力を持ち、マンドートやアドボカシーにも寄与できるオープンアクセスポリシーを策定するためのガイドラインを検討し、大</p>	<p>8 月：研究者意識調査対象者確定 9 月：インタビュー実施 SPARC Japan セミナー参加 10 月：集約・分析 11 月：間報告（図書館総合展）</p>	<p>インタビュー調査 アンケート調査 国内出張</p>	<p>WG 打ち合わせ 1 回 100 千円 （ SPARC Japan セミナー）</p>

	<p>要望事項： 調査・検討の際の参考といたく、第2回 SPARC Japan セミナー2014「大学レベルの OA 義務化ポリシー（予定）」（2014年9月26日）への参加を希望。メンバー3名（企画担当の天野以外）に対する旅費支給が可能であればお願いしたい。</p> <p>○現在不安に思っている点： ・WGの他のグループもアンケートを予定している。図書館の負担を考え、まとめて調査したほうがよいかもしれない。 ・インタビュー調査で、博士論文がOA義務化になったことへの意見を聞く可能性がある。インタビューについても他班と連携したほうがよいかもしれない。</p>	<p>学全体の研究成果発信の枠組みとしての機関リポジトリの充実ははかる。</p>			
<p>リサーチデータの取り扱いに向けた調査</p>	<p>研究データのメタデータスキーマの調査 ①分野ごとのメタデータ：データ共有が進んでいる地球科学を中心に ・DCC (Digital Curation Centre) ②一般的なメタデータ：Datacite ・ANDS (Australia National Data Service) ・Edinburgh DataShare ・DataShare (UCSF) 等 海外のデータ管理ポリシーの調査：イギリス、アメリカ、オーストラリア データ管理・共有の事例調査：オーストラリアのANDS 学内のデータニーズ調査：学内研究者の聞き取り調査</p>	<p>海外の研究データ管理の事例等を調査し、機関リポジトリで研究データ管理するためのベースを固める。また可能ならば実際にデータ共有にニーズのある分野を対象に、機関リポジトリにおける研究データ管理の実績を作る。</p>		<p>インタビュー調査 国内出張 翻訳</p>	<p>WG 打ち合わせ・ICSTI 2014 参加 1 回 100 千円 英国 RDM 担当者との懇談会 1 回 100 千円（図書館総合展前日） RDM 関連文献翻訳 1,000 千円</p>

	<p>研究データを管理する際に、現在の機関リポジトリでできるかどうか、分野ごとに管理する必要があるかどうかを明らかにしたい。ANDSを中心に機関ポータル、分野ポータル、ANDSポータルの連携ができているオーストラリアの事例が参考になると思われる。</p> <p>メタデータ調査、海外の事例調査については、国際ワーキンググループ、技術ワーキンググループと協力して実施したい。</p>				
ELS 里親さがし	別途検討				
図書館学サブジェクトリポジトリ	実現性・方向性検討				
図書館総合展イベント開催 (11/6)	<p>本委員会の活動とその進捗を周知するとともに、機関リポジトリ運営に係る先端的課題である研究データの管理について国際的動向を共有し、機関リポジトリ担当者コミュニティと共同で機関リポジトリの今後の発展の方向性について議論する</p>				<p>講師招聘 (300)、通訳 (200)、会場費用 (研究集会：パシフィコ 300、国内講師旅費 (150)、資料 (50) 1,000 千円</p>

項目	内容	ゴール	スケジュール		所要経費
図書館総合展イベント開催	コンテンツ WG に記載				
国際会議動向調査	<p>Open Repositories:リポジトリに関する世界中の関係者 (デベロッパー, ライブラリアン, 研究者, 学生, サービスプロバイダー等) が一堂に会する会議。口頭発表やポスター発表が多い。技術系の</p>			<p>海外出張</p> <p>国内出張</p>	<p>参加実績のある国際会議は今年度開催済だが、関連会議で参加</p>

	<p>方が多く参加し、リポジトリに関する技術の動向を把握するためには、参加は不可欠だと思われる。次回：2015.6.9-13、米国</p> <p>COAR Annual meeting: COAR（オープンアクセスリポジトリ連合）の年会。COAR は国際的なオープンアクセスやリポジトリの連携・推進、技術的課題や人材育成等を推進しており、年会ではその成果や方向性についての議論を行う。COAR はヨーロッパ・北米ばかりでなく、アジア・南米との連携も積極的に推進しており、継続的参加および積極的情報発信が国際連携促進に効果的に繋がる事が期待できる。</p> <p>SPARC Open Access Meeting: 米 SPARC 開催。最近の OA の展開や動向、今後の展望について議論。隔年開催で、今回は 2016 年の予定（正式アナウンスはまだなし）。情報収集のほか、北米を中心とした OA ステイクホルダーとの関係強化の観点から、継続的派遣には一定の意義があると思われる。</p> <p>ベルリン宣言記念国際オープンアクセス会議：「ベルリン宣言」をフォローアップする集会。今回は 2015 年の予定だが正式なアナウンスはまだない。研究助成団体、政策担当者、研究者、出版社、図書館などが参加している。研究報告会というよりは決起集会の色合いが濃いものの、ポリシー面での動向を把握するために継続的参加が望ましい。</p> <p>ETD ETD2013 で学位規則改正関連の報告を日本から行っており、コンテンツ WG 博士論文班の</p>				<p>すべきものがあった場合に備え、WGにとらわれず複数名・複数回の出張を可能とする</p> <p>20 万 × 6 = 120 万、国内打合せ 30 万</p>
--	--	--	--	--	---

	調査結果も報告すべきと思われる 次回： 2015.11.3-6、インド その他、関連する会議 DCC(http://www.dcc.ac.uk/events) RDA(https://rd-alliance.org/events.html), ICSTI(http://www.prime-pco.com/icsti/icsti_2/index_jpn.html)				
海外動向調査	学術コンテンツの取扱い（メタデータスキーマ、データ管理プラン等）、オープンアクセス推進に関する施策（オープンアクセスポリシー等）の調査 i)調査媒体（ML、HP、海外派遣・・・） ii)調査対象（COAR、SHARE、CHORUS、SPARC、OpenAIRE、REF、Horizon2020,RDA・・・）				
海外との情報共有	国内情報の発信 海外のリポジトリコミュニティとの関係構築				翻訳経費 20万

項目	内容	ゴール	スケジュール		所要経費
機関リポジトリへの、当該機関所属著者の文献データの自動収集		ニーズ調査が必要なトピックに関して、調査・分析を実施し、取り組むべきトピックを確定する。 ニーズ調査・分析結果のまとめ ニーズ調査の結果等で取り組むと確定し	8月：技術WG内の活動トピック募集継続 他WGの活動で技術WGに関わるものの検討 9月：ニーズ調査の設計サブ・グループの立ち上げ 10～11月：ニーズ調査の実施・集計、活動ト	アンケート調査	質問紙調査 30万 WG会合 60万 結果のまとめ作業 20万 報告書印刷 10万 他のWGとの共同調査も
SCPJの今後の運用指針の検討				国内出張	
Researchmapと機関リポジトリの連携				印刷費	

		たトピックについて、仕様策定や実装・運用に向けた検討を開始する	ピックの確定、グループ分け		
機関リポジトリログの標準処理・解析結果表示システムの構築	アクセスログ統計の標準化・解析の実施について、仕様を策定するとともに、JAIRO Cloud への実装に寄与する。		10～11月：仕様・運用指針検討 12月：JAIRO Cloud への実装 ～3月：ニーズ調査によって確定したトピックの仕様・運用指針の検討 ニーズ調査結果報告書の作成		
機関リポジトリコンテンツの活用方法の模索	現段階ではニーズが明確ではないかも知れないトピック		～3月：ディスカッション		